

開催年月日 平成19年7月25日（金）
 開催場所 海津総合福祉会館1階「研修室1」
 分科会委員定数 12名

森 教 授	（森誠一教授による西美濃地域の豊かな生物層に関する講話） ・ 海津市を中心とした西美濃地域は日本でも有数の淡水生物の宝庫である。 ・ ハリヨ・ウシモツゴ・イタセンパラの生息状況について：ウシモツゴ・イタセンパラについては近年生息の確認ができていない。ハリヨに関しても生息数が激減しており、危機的状況にある。 ・ 地域住民と連携した保護活動の必要性（まちづくり）について ・ 現状どうなのかという実態把握の必要性 ・ 海津市に生息するすべての希少生物を同時に保護していこうとするのは難しい。何種かのシンボリックな希少種の保護を進める中で、派生的に他の種も守っていくという方向がよいのではないか。
A 委 員	海津市の中では南濃町の北部などにホタルが生き残っており、この保護に本格的に取り組めば、都会からも人を呼べる海津市PRのシンボルになるのではないか。
B 委 員	海西小学校にある施設でホタルの育成に取り組んでいる。えさとなるカワニナの確保に大変苦慮をしており、市で広域的にホタルの保護に取り組むというのは難しいのではないか。
A 委 員	発言の趣旨は生活排水の問題や水路がコンクリートなど、自然環境下で生き残っているホタルなどの生物にとっての水環境の悪化が進んでいることを考える必要があるのではないかということ。ホタルがまだ残っている地域の住民と協力し、残していく活動が必要かと思う。
森 教 授	A委員は中長期的な取り組みで、農村環境のレベルから抜本的に考えようということ。今残っている地域である程度の改善をすることで、生息状況が改善する余地があるのではないかという意見ではないか。 一方でB委員は人工的にビオトープという形でよそからホタル育成のためにえさなどの資機材を持ってきてとばすということには、問題もあるが、そういったことをこうした場で揉んで、ある限定した地域ではあるけれども、ホタルができるだけ自然な感じで舞うようなまちづくりをしたいという風に伺った。

		ホタルの育成について分科会の検討メニューの中に入れてもよいのではないかということ。また、このことは農村環境のこれからのあり方というところへ繋がっていくのではないかと思う。
C	委員	ホタルや、ハリヨなどは、有名になると、外からきた者が捕ってしてしまうことがあり、P Rについては難しい問題がある。
A	委員	やはりみんなが「ダメ！」と、はっきり言える地域の皆さんの協力が必要。そういった意味でのP Rは必要。
D	委員	ゴミの問題にも関連しますが、名古屋などの街の人は、山が個人の所有物であることを知らずに、椎茸や山菜を採ったりすることを自由だと思っているところがある。 一方、城山中学校の独自の活動として、山刈りというものがあり、下草刈りなどの保全活動を行っている。しかし、保護活動自体、大変なことなので、資料に挙げられた種類すべてを保護するのは難しいのではないか。
E	委員	条例の関係や天然記念物で取り締まりができるかどうか、その点がわかれば、警察署の生活安全課などに持ちかけるということもできるかと思う。 地域住民での活動で、注意を無視して持っていくという行為をすべて規制できるかという難しい部分がある。地域住民が団結していてもトラブルにあってはいけないので、保護していく上ではそういう面も含めて考えていかないとどこかで煮詰まってしまうのではないか。
F	委員	希少な動植物が生息していると分かった時点で保護について検討をしていかなければいけないと思う。P Rの点については、市の方も難しい判断かと思うが、目玉にしていくにはデメリットもあるのでどうしていくかが今後の課題。法的な部分や、地域住民のパトロールのようなことも考えられるのかなと思う。子どもたちには「こういった生き物がいるよ。」「大切にしていこうね。」という話をしていくことが必要かと思う。
G	委員	希少種の保護については、対象となった種だけでなく広い視野、中長期的なスパンで考えていく必要があると思う。
H	委員	希少種のみ一点保護というのは非常に危険なことだと思う。根本は「水」であるから、いかに水が重要かということに力点を置いて取り

		組むべきではないか。水環境がよくなれば、自然にそういった生物も特に保護を必要とせずに増えるのではないか。単に生き物を守ることだけでなく、根本となる水環境の現状をつきとめて、いかにうまく引き出すか。現時点では水の調査が一番必要ではないか。
I	委員	観光地化すると、乱獲などの被害にあったりする。先程来話があるように観光のPRだけではなく、保全のPRも大切であると思う。 海津・平田では圃場整備により揚排水分離が進み、コンクリート水路でホテルにとっての生息環境が悪化してしまった。整備を進めた時点では時代の流れや、農業の振興等もあって仕方のない部分があったかと思うが、であれば、今後の海津市ではどうしていくか。海津平田の方でホテルを増やそうというのではなく、湧き水が豊富な南濃町で増やしたらどうかと思う。そして海津・平田ではその他の希少種の保護に取り組んではどうか。この地域では重点的にこの種に取り組もうとか、その場所にあった種を考えるためには実態調査が必要かと思う。また、今後関係する課及び事業の連携も考えていかなければならないと思う。
J	委員	最近の新聞報道で、ハリヨの生息規模が1／100になってしまったということ、また、地域の方がこのことに関し無関心であるということを知った。大きな問題であると思う。ハリヨに限らず、実際に起こっていることを地域の皆さんがご存じないので、PRすることも大事だと思う。
A	委員	保護が必要な希少生物はたくさんあるので、何をどこまでやるというプライオリティーを決める必要があると思う。ハリヨに特化というのも1つかと思う。
事務局		希少生物に限らず、在来生物にも大切なものはいるし、水環境を中心に、環境自体を保全すべきという意見もありました。 今後テーマを絞りながら、回を追って検討していただきたいと思う。
森教授		(森教授の総括) ・ 希少生物の保護についてのPRについて：現状は悠長なことをいってられない状況である。どんどんアピールすべきと考える。特にハリヨに関しては20年後に津屋川水系で絶滅してしまう可能性があり、山除川水系では2年ほど前からハリヨは確認されていない。国なり県に積極的にアピールするべきである。海津市内で絶滅してしまったイタセンパラ・ウシモツゴのようにならないため、今

事務局	我々がしなければならないことはたくさんある。 ・ D委員の城山中学校の山刈り（学校林での下草刈り）は、それ自体が学校教育に取り込まれているという点で、おもしろい取り組みで学校のアピールになると思う。 ・ 地域の日常生活をまちづくりに取り込み、且つ自然環境保全につなげるかという視点で取り組みを考えればよいのではないか。 ・ 意識的に保全ということをやってしまうと、往々にして間違っことをやってしまいがちだが、山刈りのような先達の生活や知恵を学校教育や、まちづくりの中に取り込んで学び活用することがよいまちづくりに繋がるのではないか。 ・ 水環境調査について：数年前に水文学的調査として全国の大い湧水地5カ所を3年かけて調査をした。その中には養老山地のふもとも含まれており、今後調査結果についても情報提供する。 ・ 外来種の問題：希少生物のみを保護するだけでなく、外来種に対しての積極的な対策もきわめて重要。国土交通省では一級河川を中心に外来魚対象の対策委員会を立ち上げた。全国の河川管理者が、外来種の駆除に向けての具体的な取り組みを練る段階にきている。 ・ まとめ：今現在どういう状況なのかという現状把握の必要性和、これから何をどういう形でやるのかを分科会委員の合意を得た形で希少生物の保護に関して議論ができればと考える。闇雲に議論をしてもそれぞれが考える力点のみを挙げる会議になってしまうので、目的に対しての合意を得、順応的な「シナリオ」を作る事で新しい事実・問題や状況、また、海津市ならではの問題点に応じて、柔軟に対応できると考える。 ・ 最後に海津というところは非常におもしろいところです。子どもたちを中心に海津が好きになるようなことをいろいろな形で、我々から提供していきたい。好きだから守りたいというモチベーションを作りたい。単に、「希少種がいるから守りましょう。」「きれいな川にするためにゴミを拾いましょう。」というシュプレヒコールだけではダメで、海津はこんなにいいところであるとか、こんな宝物があるということを十分周知して、だから守りたいという枠組みを提案できればと思います。子どものモチベーションをあげて、我々おじさんおばさんが引っ張られるような形でモチベーションを持っていったらと考えます。そういった形でモチベーションを持って活動ができればいいなということで本日のまとめとさせていただきます。 これをもちまして第1回の分科会を終了させていただきます。
-----	---